

三島小理科レポート

2016年 No, 556 四国中央市立三島小学校 田中正史

かか、「見っか」た!

1179 「セミが出てきた」7月6日

朝は教頭先生です。

「昨日の帰りに玄関前にセミの幼虫がいました。枝にひっかけといたけど。」

「あれ?羽化しとる。ここにも殻がある。壁をのぼって羽化しようとして落ちたんだな。」

去年の夏も毎朝、玄関付近にいくつも脱け殻が落ちていました。その後、5年生が東庭の玄関前で騒いでいる。

「どうしたの?」

「先生!セミの幼虫。」

るの下の穴にセミの幼虫を見つけていました。

5年理科の時、Aさんがクマゼミを持ってきました。指にとめて遊んでいました。

昼休み、3年のBさんは脱け殻集め。5年のCさんは、別の石の下にセミの幼虫を見つけました。

先生,

-= 1=

「先生!セミがいます。」

「この石の下。この穴の中で動いています。」 「本当だ。夕方来たら、幼虫が出てきてセミ になるところを見られるよ。」

「ラヘー」

Cさん、鼻の頭に大粒の汗をたくさんつけて いました。暑い中、がんばって探していたんだね。

550号で紹介したセミの脱け殻についていた緑色

のワタは時間がたても白くなりません。教頭先生と見たセミの脱け殻には緑色のワタはついていませんでした。石の下のセミの幼虫を見に出ました。石の下に元通りに戻されていません!幼虫がひっくりかえったら、腹部に緑色の物が見えました。石の裏には緑色のコケがついていました。どうやら緑色のワタは、石の下から出てくる 時に体についたコケのようです。

最後は校長先生です。

「一気にセミが出てきだしました!」

「去年は鉄板が置かれて出てこれなかったので、今年はどうか心配していました。」(これ私)

1年間、土から出られず、この夏を着っていた セミの幼虫です。大事にしてあげましょう。

幼虫は見つけても、必ず元の通りにしよう。



去年の夏は、鉄板があかれていました。 むこのよう虫は、でたくても、出ることかい できませんでした。

